

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他に地域密着を組み込んだホーム独自の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下・職員室に理念を掲示しており、理念の実践に向け毎朝唱和し、日々のケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域に開かれたホームを目指しており、散歩時には住民に積極的に挨拶をしたり、近隣のゴミ拾いや地域の行事に参加する取り組みを行っている。また実習生やボランティアを積極的に受け入れており、その際、認知症の方への接し方について説明するとともに、利用者のプライバシーに十分配慮している。	○ 地域やご家族に、認知症について理解してもらえていない事も多くあるので、家族参加の行事や運営推進会議等を利用し、理念の浸透や認知症の理解をしてもらえるよう努めて行く。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日課である毎日の散歩の際、近隣住民に積極的に挨拶や声掛けを行っている。また地域の小学校・中学校のボランティア活動の受け入れ、町内の行事への参加、周辺のゴミ拾い等の地域活動等を積極的に行い、地域との交流の機会を持っている。	○ 地域との交流・活動に参加する機会を今後も増やして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義についてほとんどの職員が理解しており、評価結果をふまえ、業務の改善・サービス向上に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員から情報やアドバイスを頂き、サービスの向上に役立てている。開催は2ヶ月に1回。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特別な事例については、市の担当者と協議し対応している。また、必要に応じて利用者に関する情報交換を行う等、市と連携を図り、サービス向上に努めている。また市の医療、福祉関係者が集まる会議に参加し情報交換を行っている。	○ パンフレットや広報誌の配布、外部評価の結果提出・報告を通じて、積極的に働きかけを行い、更なる連携強化に繋げていく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会を行った。ご家族や利用者から相談があれば、事業について情報提供等の支援を行っている。	○ 勉強会は行ったが、職員の入退職もあった為、再度行い認識を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルがあり、随時、勉強会や会議等で話し合いを行っている。	○ 今後も虐待防止については話し合う機会を多く持ち、個々の理解を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時に疑問点等を確認し、理解・納得頂いてから、契約を交わしている。	○	契約時には丁寧な説明を心掛けている。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な機会は設けていないが、日々の利用者とのコミュニケーションから、不満や苦情などを汲み取れるよう努めている。不満や苦情等があった場合には、改善に向け会議で話し合い、運営に反映させている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には近況報告を行っており、それ以外でも受診結果や特変時には電話連絡を行っている。金銭管理は、ご家族の希望月に領収書の一覧を郵送したり、希望があれば出納長を見て頂いたりもしている。職員の移動に関しては、全家族には報告は行っていない。	○	職員の移動等があった時には、報告を行って行きたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に、苦情や要望の窓口の設置や処理方法などについて説明を行っている。またそれについて、施設内に掲示していると共に、ご家族が気軽に何でも話せるような関係作りを日頃から心掛けている。	○	頂いた意見・苦情・不満は大切に扱い、より良い運営が出来るよう努めたい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを積極的に図り、運営改善の参考にしている。	○	気軽に意見・提案を出せるような雰囲気作り、また会議の場だけでなく、日頃のコミュニケーションの中からも上手くを引き出していけるよう今後も努めて行きたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じた勤務体制作りに努めている。	○	利用者の要望にすぐに対応出来る様、勤務体制や業務の調整を今後も図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に動揺を与えないように配慮するとともに、確実に引継ぎを行い業務に支障を来たさない様努めている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会による勉強会の定期開催や、法人内での研修会参加等の職員教育を行っている。	○	外部研修参加の機会を多くしていきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っており、また関連事業所とも定期的な情報交換を行っている。施設間の交流も、勉強会を開催する等行い取り組んでいる。	○	市内のケアマネジメント会議に今後も継続して参加し、交流していきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	コミュニケーションを図り、職員のストレスや悩み、体調等の把握に努め、働きやすい職場環境作りに努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常的にコミュニケーションを図る事で、職員の状況を汲み取り、個々に応じた対応で向上心が向上するよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ずご本人やご家族と面談を行い、希望や要望また不安な事等を伺っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のお話を伺い、必要としている適切なサービスが受けられるように、地域包括センターや居宅支援事業所等との連携を図っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に施設を見学して頂き、納得の上で入居して頂いている。また面談により、利用者やご家族の意向を把握し対応している。ショートステイでの体験入居や、ご本人に合ったユニットへの入居等、柔軟に対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を通じて、一人一人の喜怒哀楽を理解するように努めている。また介護をしているのではなく、生活を共に送る、生活する為の支援をする、という気持ちで日々関わっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を伝え情報の共有を図る中で、ご家族の様々な思いを受け止め、協力しながら支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に手紙を出してもらったり、利用者自身が気軽にご家族に電話が出来るように対応している。またご家族が参加する行事を行う事によって、ご家族との絆を感じ、それを喜びや生きがいに繋がるよう支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会出来る様な開放的な雰囲気作りや対応を行うとともに、またご家族やご友人には、外出や外泊の機会を多く持って頂けるように伝えている。	○	利用者の馴染みの美容室やお店、また自宅等へも行けるよう対応している。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご本人に合ったユニットへ入居出来るよう努めている。入居者同士のトラブルもあるが、助け合い・支えあって共同生活が出来るよう支援している。	○	職員が間に入り、利用者同士が積極的に関わり・コミュニケーションが図れるよう、良好な関係作りに努めている。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、連絡をとり様子を伺う等している。またご家族より相談があれば相談に応じ、必要なサービスを利用できるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントだけでなく、日々の関わりの中からも、利用者やご家族の希望や意向の把握に努めている。また言語だけでなく、表情やしぐさ、態度等の非言語的な部分からも思いを汲み取るように努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人やご家族・担当のケアマネ等から情報を聞き、把握するよう努めている。また日々のコミュニケーションや、面会時のご家族からの情報等も活かし、馴染みの生活が継続出来るよう努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の日常の生活の様子や、利用者やご家族とのコミュニケーションの中から、利用者の全体像を把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人やご家族から知り得た情報を、利用者個々のアセスメントシートに全職員がいつでも記入できるようにし、職員間で情報を共有し支援に活かしている。またご家族からはケアプランの見直しの時期だけでなく、面会時のコミュニケーションの中からも意見を伺っている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態や要望の変化、ご家族からの希望や要望の変化があった時は、評価・再アセスメント・カンファレンスを行い、新しく希望・要望・状態に沿うようなケアプランを作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル・商事摂取量・水分摂取量・排泄の状況・生活の様子・状態等を、個人ごとに記録している。職員がいつでも確認出来る様にし、また勤務交替時には申し送り、情報の共有を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等、ご家族の対応が困難な際には、施設で支援を行っている。また医療連携加算による身体状況の定期観察、ショートステイ利用、月1回の床屋の来所等、必要に応じた柔軟な対応を心掛けている。	○	利用者やご家族の希望があれば、その都度検討し、対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事以外でも必要に応じてボランティアや職場体験等を受け入れている。また定期的に消防に依頼し、避難訓練や救命講習を行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人からの意向や必要性が生じた際には、必要なサービスが利用出来るよう、連携を取り、支援している。	○	市のケアマネジメント会議に参加し、情報交換や情報の共有を、今後も継続して行って行きたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、権利擁護事業や困難事例の相談等、地域包括支援センターと連携を図っている。	○	市のケアマネジメント会議に参加し、情報交換や情報の共有を、今後も継続して行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、ご本人やご家族の希望する医療機関に引き続き受診している。受診時の状態や受診の結果等は、その都度ご家族に報告しており、情報の共有を行っている。	○	気軽に相談に応じてくれる医療機関があり、また職員に正看護師を配置している。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内にある精神科病院を受診時に、日常の対応等で不安・不明な点などについてDrまたはソーシャルワーカーに相談をし、利用者の支援に繋がっている。	○	認知症専門または認知症に詳しい医師が、ほとんどいないのが現状である。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看護師を職員に配置し、定期的に健康管理を行っている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはお見舞いの他にも、病院やご家族との情報交換を密に行っている。また退院後の生活に向け、状態や注意すべき点等も相談している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアに対応しており、「重度化及び看取り介護に関する指針」を定め、入居時の契約の際にご本人・ご家族から重度化や看取り介護についての意向の聞きとりを行い、同意書を頂いている。また終末期における対応の方針については職員に周知し共有している。	○	重度化や看取り介護についてのマニュアルがある。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人・ご家族の意向を尊重し、医療機関、看護師と連携し、グループホームとしての可能な対応を随時検討している。	○	重度化・看取り介護についてのマニュアルに添い、当施設独自のしっかりした対応・体制作りに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当施設での生活状況などの情報の提供・ケア関係者での十分な話し合いを持つ等、連携を取りながらスムーズに住み替えが行われるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を拒否したり否定することなく、一人一人に寄り添うケア、羞恥心等に配慮したケアを提供するよう努めている。職員は個人情報保護法について理解しており、個人に関する情報は鍵のかかる棚に置いたり、写真などホーム便りに掲載する場合には利用者やご家族の同意を取るなどの対応を行っている。	○	プライバシー、個人情報保護に配慮した対応を周知徹底していく。また、ゆとりある業務を心掛け、声掛けや対応にも十分配慮して行きたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご家族も交え、出来るだけご本人の意見を伺い決定して頂けるよう支援している。非言語的な部分からも思いを汲み取るよう努めている。	○	利用者一人一人をより深くアセスメントし、今後の対応に繋げていきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、可能な限り利用者のペースや訴えを優先するよう努めている。その時々利用者の状態に応じた、柔軟な対応を心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回床屋の来所があり、希望者は利用している。また馴染みの美容室や洋品店等での買い物にも出かけている。行事にも買い物の機会を設け、ご本人の好みの物を購入されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、献立に反映している。利用者の禁食や苦手な食べ物についても把握し対応している。調理・盛り付け・配膳・片付け等と一緒にいき、職員も同じテーブルで頂き、楽しい時間となるように配慮している。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好品は、主治医・ご家族と相談しながら職員管理のもとではあるが、可能な限り取り入れている。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握を行い、また生活習慣に応じた声掛けや誘導で、オムツの使用量や失敗を減らすよう支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の入浴習慣等を把握すると共に、羞恥心等に配慮した支援を心掛けている。本人の希望に添った対応を可能な限り行っているが、時間帯は職員側の都合になってしまう事が多い。	○	利用者の希望に添えるよう、勤務体制や業務改善を行って行きたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムが維持出来るよう、体調や希望等考慮し、本人のペースで過ごして頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人やご家族からの情報や、また日常生活から好みや得意分野を把握し、日々役割や日課を持って過ごして頂いている。個別にお話を伺ったり、コミュニケーションの中からご本人の気持ちを汲み取るよう努めている。	○	余暇活動をさらに充実させて行き、利用者の楽しみの時間を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理をされている利用者もいるが、大半は御本人やご家族の希望で、事務所で金銭をお預かりしている。買い物や外出時には、ご本人が自由に使えるよう支援を行っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課として行っている他、気分転換の為に、外出行事を積極的に取り入れている。希望があれば、個別に外出や買い物にも対応している。	○	全利用者を平等に外出支援して行きたいが、散歩支援が限界で、買い物・外出行事等には、ほとんど参加できない利用者もいるのが現状である。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出や自宅一時帰宅など、ご家族の協力もあり一緒に出かけられる機会は多くある。行ってみたい場所等の希望があった際には、職員間で検討して外出行事に組み入れたり、ご家族に協力を求めるなどの支援を必要に応じて行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に、電話や手紙が出せるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪れやすい雰囲気作りと、落ち着いて過ごす事の出来る面会スペースを用意している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルがあり、全職員に周知徹底し、拘束のないケアを心掛けている。またやむおえず拘束を行わなければならない場合は、理由等を介護記録に残す等の体制が整備されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	一人一人のリスクを想定し、対応策の検討を行っている。また事故報告書やヒヤリハット事例については、随時話し合いを行って行き、再発防止に努めていく。
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	緊急時に慌てずに対応出来る様、今後も定期的に訓練や研修を行って行きたい。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	災害時に近隣住民や警察・消防の協力が得られるように、日頃から働きかけを行って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	予測されるリスクや対応策については、ご家族に説明している。ご本人にとって最も良い生活やケアについて、ご家族と相談しながら対応して行きたい。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の既往歴、病状を把握している。毎朝や適時のバイタルチェックにて、健康状態の確認を行うと共に、記録や会議を通じて情報の共有化を図っている。状態に変化があった場合には、正看護師との連携、またすぐに病院を受診する体制をとっている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人ごとに処方箋を整理し、処方内容を確認出来るようにしている。処方内容変更時には、記録や申し送り等で情報の共有を行っている。体調に変化があった時には、ご家族に連絡すると共に、速やかに医療機関と連携を図るよう努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を取り入れたり、水分摂取量を増やす等している。活動量の増加や食事・水分量を把握・管理し、自然排便を促している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力医療機関から指導を受け、個々に合わせた正しい口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態で提供、支援している。食事摂取量・水分摂取量は細かく記録し、摂取量が確保出来る様支援している。	○	適正なカロリー管理を行い、栄養バランスにも十分に配慮していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルがあり、職員はいつでも確認できるようにしている。感染症に対する知識を深める為に、流行時期に合わせて勉強会を行ったり、最新の情報がある時には資料の回覧や掲示、申し送り等で伝達している。感染症に関する情報は、面会時等を通じてご家族にも提供し、感染の予防・防止に協力頂いている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	加熱や冷凍等、食材に合わせた適切な調理を行っている。調理器具は随時消毒を行い、注意事項の掲示等でも職員の注意を喚起している。生鮮食品は買いだめせずに、毎日仕入れを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	GH玄関のご案内やセンサーパネルの使用方法等の説明を行っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の畳の小上がりには、冬期間はコタツを設置している。季節感のある装飾品を利用者と一緒に作成したり、明るく家庭的な雰囲気作りに努めている。また職員の立てる物音や、テレビや音楽の音量への配慮、カーテンを利用した日差しの調整等、快適に過ごせる空間作りを心掛けている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人で過ごせるスペースや団欒できるスペースがあり、またそれ以外にもベランダや談話室等で思い思いに過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご自宅で使用されていた家具や布 団・思い出の物等の馴染みの物の持込を、積極 的に働きかけている。また生活していく上で必要 と思われる物に関しては、ご本人やご家族と相談 の上購入している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空気清浄機の設置やこまめな換気を行って いる。匂いに関しては、換気や消臭剤の使用等 を行い、不快な空間とならないよう配慮して いる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、低床のテーブル や特殊寝台などを取り入れ、生活しやす い環境に配慮している。また利用者にと って危険・不便だと思われる事や、利 用者から要望のあったものについては 早急に検討し、安全な生活を送れるよ うに対応している。	○	高齢の利用者・ADL低下の利用者が多 くなってきているので、それに伴った 環境改善を随時検討して行きたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	アセスメントから、一人一人の出来 る力分かる力の把握に努め、それを環 境作りに活かしている。また居室を 間違えやすい利用者には、案内紙を 貼ったり、目印を置く等の工夫を行 い、混乱を防いでいる。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	居室内は家具や馴染みの物を置いたり、 飾ったりと自由な空間としている。ホ ールには、利用者と一緒に作成した 装飾や行事の写真等を飾り、楽し める空間となるよう努めている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・アセスメントに力を入れ、一人一人をより深く理解し、個別性（個性を生かした）を重視した支援を行うよう努めている。
- ・ご家族との面会時の関わりや電話での連絡等、情報交換や報告・相談をまめに行い、気軽に来所出来るホームを目指している。またご家族参加の行事を行い、利用者が家族との心のつながりや喜び・生きがいを感じる事が出来るよう努めている。